

周波数ひっ迫対策のための国際標準化連絡調整事務 平成28年度終了評価結果

(5点満点)

案件名	実施期間	主な評価コメント	評価
次世代GMDSS(全世界的な海上遭難・安全システム)の要素技術の国際標準化	H24-H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・関係する国際会合(IALA、ITU、IMO及びAPT)それぞれに参加し、各国際標準化機関・団体において我が国を代表して提案を行ったほか、各国及び各国際標準化機関・団体の検討状況・動向について調査しており、我が国の提案する次世代GMDSSの要素技術の規格／仕様が、ITUでの国際規格となるための国際標準化活動を精力的に進めている。</li> <li>・成果目標であるIMOにおけるGMDSS近代化計画への我が国の技術の採用に対して、様々な国際標準化機関へ提案を行っており、多くの提案が反映されている。</li> <li>・IMOへの入力に成功するなど有益であると判断できる。</li> </ul>	4.1
屋内環境における電波雑音特性等の国際標準化のための国際機関等との連絡調整事務	H25-H28	<ul style="list-style-type: none"> <li>・測定法のITU-R勧告化のみならず、屋内電波雑音データバンクへの情報入力や我が国における雑音特性がレポート等に反映されており、本調整事務は非常に有益であったと考えられる。</li> <li>・我が国より提案した屋内電波雑音の測定法等のITU-R 勧告化を実現した。これにより、当該勧告の測定法に基づいたデータを、ITU-R が管理する電波雑音データバンクに入力することが可能となった。さらに、我が国の各種屋内環境で取得した最新の電波雑音特性を、同電波雑音データバンクに多数入力した。以上より、目標は十分達成されたと思われる。</li> <li>・当初目標としていた国際標準化会合には、参加し、必要な寄与文書の入力や他国の状況調査等は十分に行えたものと評価できる。ただし、成果としての技術基準への反映が更に望まれるところである。</li> </ul>	4.0